

糖尿病性足病変の進展予防における、保険薬局での足チェック推奨の効果

【目的】

糖尿病患者は、末梢神経障害や血流障害、細菌への抵抗力減弱により足の病変が起こりやすくかつ気づきにくい。この足病変が足壊疽まで進行すると、足や下肢の切断に至る場合がある。医科においてフットケア普及の為に2008年に糖尿病合併症管理料が新設されたが、糖尿病患者に広く普及・認知されているとはいいがたい。

そこで、保険薬局での窓口対応を利用し、糖尿病患者に積極的にアプローチすることで糖尿病性足病変の進展予防が出来るのではないかと、また、足病変を早期発見し、治療に繋げることが出来るのではないかと考えた。本研究では、糖尿病患者に足チェックの必要と方法を伝え、自発的な足チェックを促し、更に足病変の疑いがある方について受診勧奨、医師への報告を行った。

【方法】

- ① 糖尿病治療中の50歳以上の男女全172名に対し、1)足チェックの必要性の認知、2)足チェック実施の有無・頻度、3)足病変の認識の有無、4)足病変の治療の有無を聞き取り
その際、足病変に関するパンフレットと足チェックシートを配布し、足チェックを推奨
- ② 次回来局時に足チェックシートを回収し、足チェックと足病変について同様に聞き取り
- ③ 足チェック推奨前後での各聞き取り項目を比較

【結果】

- ・足チェックの必要性は71%の人が知らないと回答、足チェックは66%が未実施
- ・足チェック推奨後、足チェックの実施割合が34%→72%に増加
- ・足チェック推奨後、足病変の治療割合が23.7%→28.4%に増加

【結論】

糖尿病患者において足チェックの認知は低かったが、保険薬局で足チェックを推奨することで患者自ら実施するようになり、足病変の早期発見・早期治療に寄与できた。このように、患者自らが認識しづらい合併症について、保険薬剤師が積極的に関与し、主治医への報告や専門医への受診を勧め、診断・治療に導くことは、我々の役割として重要である。